

実践② 鹿児島女子短期大学附属すみれ幼稚園

1 はじめに



すみれ幼稚園は学校法人志學館学園（旧・実践学園）が、鹿児島女子短期大学附属の幼稚園として、昭和61年、鹿児島市皇徳寺団地に開園しました。毎日、200名を超える子供たちが元気よく登園してきます。

当園では、子供一人一人に豊かな感性、個性、主体性を育てるため、様々な自然体験活動や読書活動に力を入れています。また、毎年教育実習生を受け入れ、教育現場で活躍する人材の育成にも力を注いでいます。

2 すみれ文庫

すみれ文庫は、ログハウス風のおしゃれな外観の文庫室です。広々とした室内には、選りすぐりのたくさんの絵本が並び、親子の憩いの場にもなっています。

毎週水曜日を「すみれ文庫の日」と名付けて、保護者と園児に貸出しをしたり、読み聞かせをしたりして、読書活動の充実に努めています。



3 保育活動での図書の活用

(1) 降園準備時間の読み聞かせ

降園準備時間は、子供たちが満足感や期待をもち、落ち着いて降園するための大切な時間であると考えています。

今日一日の振り返りや翌日の予定の確認をしたり、担任による絵本や紙芝居の読み聞かせ、季節や行事にちなんだ歌を歌ったりします。担任は季節や行事、子供の発達段階を考慮して絵本を選びます。子供たちは読み聞かせが大好きで、担任が読む絵本の世界に浸り、満足した様子で降園していきます。



(2) 保育活動（自然体験活動）と図書を関連付けて

園内には、畑や田んぼがあり、子供たちが稲やいちご、ミニトマトなどの作物を育て、収穫しています。また、四季折々の草花に加え、アプリコット・梅・びわ・桜の木や幼稚園に隣接する「ブルーベリーロード」と呼ばれる緑地帯など、季節に応じた自然や生き物にふれることができます。当園では、この恵まれた環境を生かし、栽培や収穫、飼育などの直接体験を保育活動に取り入れています。

その際、活動内容と関連のある本を担任が読み聞かせたり、子供たちが疑問に思ったことやもっと知りたいことを自由に調べることができるような本を紹介したりします。担任は、子供たちの興味関心を高め、科学的なものの見方や考え方のもとにつながる個々の気づきを促すため、選書や選んだ本を紹介するタイミングを常に検討しています。



ミニトマト栽培のときには、トマトの育て方やトマトのにおいの秘密などに関する本を紹介します。

お米作り活動では、田植えから稲刈り、脱穀まで自分たちで行います。アイガモを使った草取りを見たり、脱穀を自分の手で行ったりする活動と本の紹介によって、五感をとおして実感したことを本で確かめることができます。

また、園の梅の木から収穫した梅の実を使って梅干しを作り、取れた米と梅干しで「うめぼし・おにぎりパーティー」をします。

子供たちは、自分たちで育てたものを食べる活動をとおして、自然の恵みのありがたさを実感するとともに、本によって知識を確かなものにできました。



4 すみれ文庫活動

(1) 親子読書活動

当園の文庫室「すみれ文庫」には、絵本をはじめ、大型紙芝居やエプロンシアター、DVDが置いてあります。大人向けの本もあり、親子で読書に親しむことができます。

親子読書活動の日には親子で読み聞かせを行ったり、親子で読む絵本を借りたりします。係になっている保護者が返却・貸出しを行い、活動の様子は日誌に記録されています。



(2) 幼児文庫活動

組ごとに曜日を定め、すみれ文庫を利用して本の貸出しを行っています。各クラスにも絵本棚がありますが、文庫での読書活動は子供たちにとって楽しい時間です。文庫内の書棚から絵本を引き出し、友達と担任と一緒に読み、貸出しをします。担任は読み聞かせをしたり一人一人に声を掛けたりして、子供の読書活動を支援しています。

5 読み聞かせグループ「ころころさん」

園児の保護者で構成される絵本の読み聞かせグループ「ころころさん」は、絵本や人形劇、ペープサート、手遊びなどで子供たちをお話の世界に引き込んでくれます。季節に合わせたお話会や年末の全園児対象のお話会は、園児がとても楽しみにしている時間です。

「ころころさん」は、園の行事に積極的に協力・参加してくれます。また、未就園児とその保護者にも、お話会をとおして親子での読書活動の楽しさや大切さを伝えています。



6 成果と課題

- 日常の保育中の各担任による読み聞かせや「すみれ文庫活動」での読み聞かせは、子供たちにとって楽しい時間となっています。
- 保育活動に関連する図書の読み聞かせは、当園の保育活動を充実させています。
- 保護者による読み聞かせ活動は、子供や保護者にとって楽しい時間となって、保育活動の充実につながっています。
- ◇ 絵本への興味関心に個人差があり、個に応じた読書指導が必要です。
- ◇ 今後、更に保育活動と関連のある図書の選定を進め、保育の充実につなげる必要があります。